

大分市

精神障害者にも対応した地域包括 ケアシステムの構築に向けて

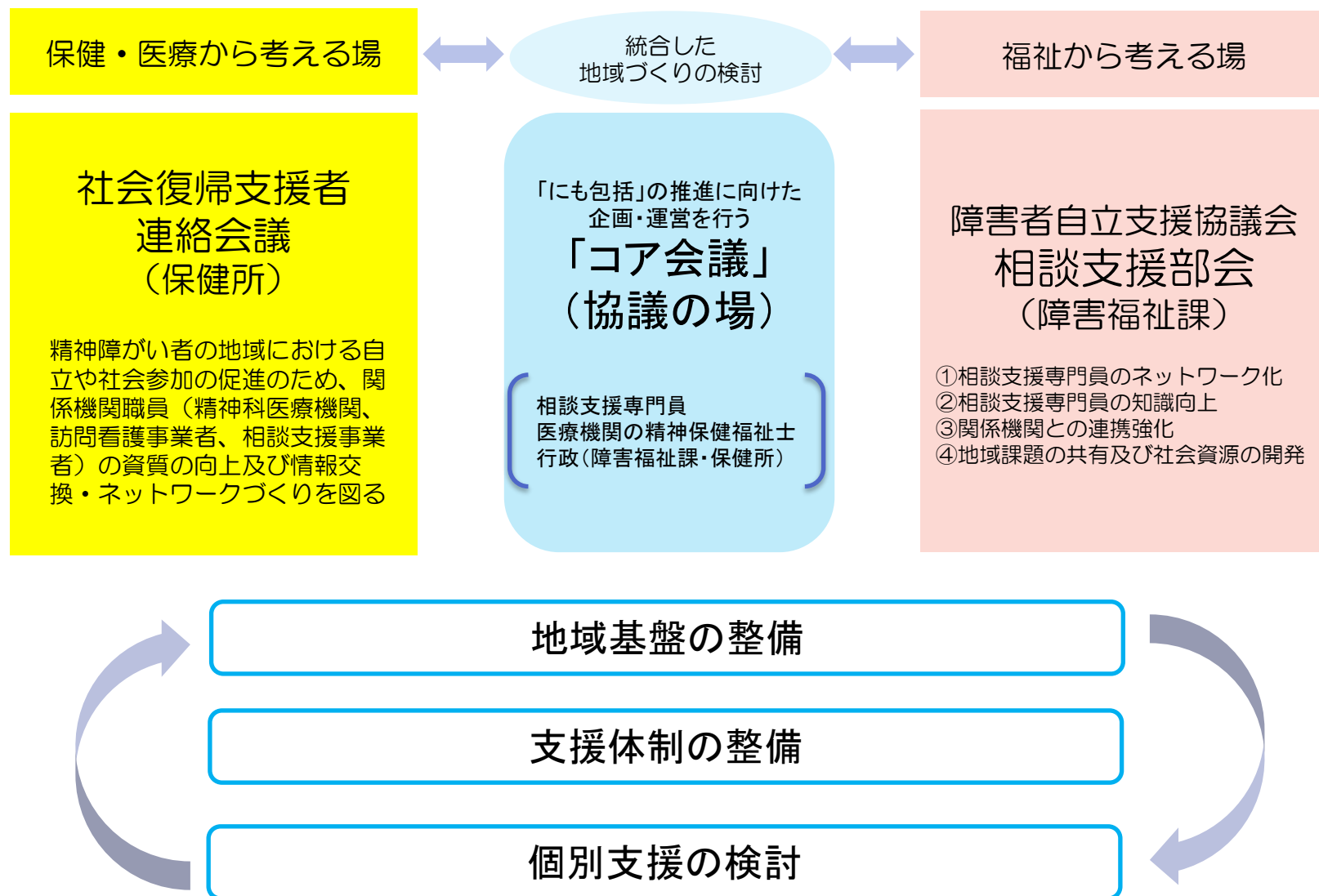
大分市では・・・

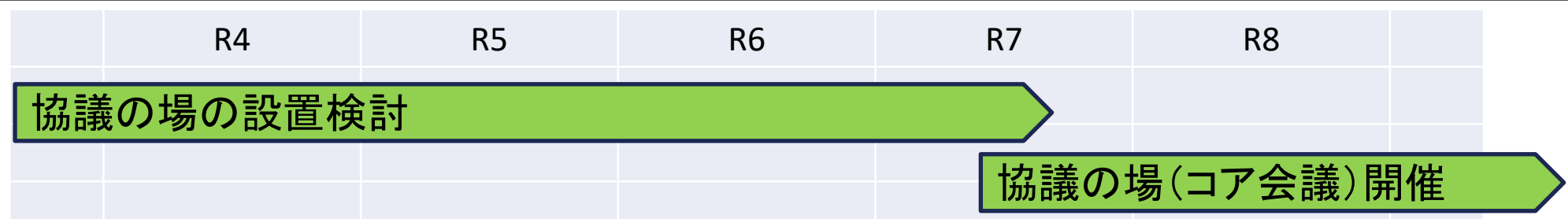
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向け、医療・保健・福祉の関係機関と連携を図り、精神障害の有無にかかわらず、安心して暮らすことができるように重層的な支援体制を推進していきます。

1 県、指定都市、中核市、特別区の基礎情報



障害保健福祉圏域数（R8年4月時点）		1	か所
市町村数（R8年4月時点）		1	市町村
人口（R8年4月時点）		469,544	人
精神科病院の数（R8年3月時点）		12	病院
精神科病床数（R8年3月時点）		2,731	床
入院精神障害者数 （R6年6月時点）	合計	1,705	人
	か月未満（％：構成割合）	278	人
		16.3	％
	3か月以上1年未満 （％：構成割合）	260	人
		15.2	％
	1年以上（％：構成割合）	1,167	人
		68.4	％
退院率（R4年時点・大分県全域）	うち65歳未満	337	人
	うち65歳以上	830	人
	入院後3か月時点	55.0	％
	入院後6か月時点	71.7	％
心のサポーター養成者数	入院後1年時点	81.3	％
		47.0	人
相談支援事業所数 （R8年5月時点）	基幹相談支援センター数	3	か所
	一般相談支援事業所数	14	か所
	特定相談支援事業所数	62	か所
保健所数（R8年4月時点）		1	か所
（自立支援）協議会の開催頻度 （R8年度）	（自立支援）協議会の開催頻度	2	回／年
	精神領域に関する議論を行う部会の有無	無	
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況（R8年4月時点）	都道府県	有・無	か所
	障害保健福祉圏域	有・無	／
	市町村	有・無	1／1





R7の主な取り組み

8月

第1回コア会議

「自立支援協議会 相談支援部会」、「社会復帰支援者連絡会議」を活用しながら、「精神科医療機関の精神保健福祉士」や「相談支援専門員」等から医療と福祉の連携に関する課題把握を行うこととした。

9月

自立支援協議会 相談支援部会

「精神科医療機関の精神保健福祉士」との連携における課題点をグループワークを行い、洗い出し。

11月

社会復帰支援者連絡会議

「精神科医療機関の精神保健福祉士」(16名)、「相談支援専門員」(15名)、「訪問看護ステーションの看護師等」(18名)で精神科病院からの退院支援の事例を通じて、①同職種のみでのグループワーク、②多職種間でのグループワークを実施し、「多職種連携」に関する課題を把握。

主な課題・意見

- ア. 連携のタイミングや方法が確立されていないこと
 - 退院に向けて早めの相談をしてほしい。相談窓口がない外来受診者の連携方法をどうするか。
- イ. 医療・福祉ともに受け入れ先(サービス)に関する情報が共有できていない。
 - グループホームや就労継続支援に関する詳しい情報、身体疾患にも対応できる病院の情報など。
- ウ. 専門職種でお互いの役割(得意分野)を理解できるような場が継続してあるとよい。

2月

第2回コア会議

令和7年度取組の振り返り及び今後の取組について協議

医療側から見る課題	福祉側から見る課題
患者が利用する事業所が変わっていた	敷居が高く相談しにくい
協議もなく事業所側の意向を伝えられる	電話しても誰につないでよいかわからない
日頃の情報提供もなく、状態が悪化した患者の入院依頼がある	病院側のルールがわからない
何を頼んだらよいかわからない	福祉側ができることを理解してくれない



現状の課題	お互い何ができる何ができないかわからない (各職種の役割やできること・できないことの認識が不十分)
-------	--

令和8年度以降も「社会復帰支援者連絡会議」、「自立支援協議会 相談支援部会」等を活用しながら、精神障がいのある方が地域生活を送ることができるよう「退院支援」や「地域移行・定着」に向けて、精神科医療機関の精神保健福祉士や相談支援専門員等の知識・支援の質の向上に取り組むこととした。

また、その実現のためには両職種の連携が不可欠であることから、「お互いの役割を理解できる場」を確保することによる「顔の見える関係づくり」によって、課題の共有や対応策の検討に取り組むこととした。

2月

精神障がい者の支援に関する連絡会

精神科 医療機関の精神保健福祉士、訪問看護ステーションの看護師等それぞれに呼びかけ、各職種毎に「精神障がい者の支援に関する連絡会」を開催。各専門職が支援を行う中での困りの共有や支援の工夫を共有した。

【特徴（強み）】

医療機関の精神保健福祉士等、訪問看護ステーションの看護師等、相談支援専門員が一同に会する会議を従来から開催をしており、医療・福祉関係者が顔を合わせる機会が継続している。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割（取組）	
協議の場の活性化 医療、福祉、行政（保健所・障害福祉課）を構成員としてR7年度に協議の場（コア会議）を設置したが、将来的なロードマップまで描けていない。	R7年度に協議の場（コア会議）を設置した段階であり、その開催頻度や長期的に目指す方向性についての議論を行っていき、協議の場の活性化を目指す。	保健	協議の場と社会復帰支援者連絡会議の連動について検討する
		医療	
		福祉	協議の場と自立支援協議会相談支援部会の連動について検討する
		その他関係機関・住民等	
事例検討と地域課題の抽出 継続的な事例検討の場などがなく、個別課題から地域課題を抽出する仕組みが十分でない。	個別課題の検討のための多職種による事例検討の場をどのような形で設けるかを検討していく。	保健	
		医療	
		福祉	
		その他関係機関・住民等	

課題解決の達成度を測る指標	現状値 （R 8 年度当初）	目標値 （R 8 年度末）	見込んでいる成果・効果
①			
②			
③			

【にも包括構築の体制】

所管部署名（※）	所管部署における主な業務
障害福祉課	・ 障害者自立支援協議協議会を設置 ・ 障害福祉サービス等の支給決定 ・ 障害福祉サービス事業所等の指定等 ・ 協議の場に関する運営
保健予防課	・ 社会復帰支援者連絡会議の開催 ・ 精神保健全般に関する相談、訪問支援 ・ 心の健康づくりや精神障害に対する正しい知識の普及啓発

（※事務局を担当する部署）

連携部署・機関名	連携部署・機関における主な業務

各部門の連携状況		強み・課題等
保健		
医療		
福祉		
その他関係機関・住民等		

※各部門の状況はできるだけ詳しく記載ください

名称	協議の場の構成員	開催頻度	実施内容	既存の会議体を活用している場合はその名称・課題・強み等
コア会議	保健：保健予防課	2回/年	にも包括の構築を推進するため、保健医療と福祉それぞれの立場から、地域課題の抽出や解決に向けた取り組み検討を行う。	・大分市障害者自立支援協議会の相談支援部会の一部として開催している。 ・コア会議を通じて、「相談支援部会」と「社会復帰支援者連絡会議」を活用しながら、多職種との連携（顔が見える関係づくり）を深める取り組みができています。
	医療：精神科病院			
	福祉：障害福祉課 基幹相談支援センター			
	その他関係機関・住民等：			
	保健：			
	医療：			
	福祉：			
	その他関係機関・住民等：			
	保健：			
	医療：			
	福祉：			
	その他関係機関・住民等：			

【その他事項】

※協議の場の運営における課題や悩んでいる点、アドバイザーに相談したい事項など、自由に記載してください

10 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けたスケジュール（短期）

到達目標 (R 8年度)	・「社会復帰支援者連絡会議」や「相談支援部会」を活用しながら、精神障がいのある方の「退院支援」や「地域移行・定着」に向けて、精神科医療機関の精神保健福祉士や相談支援専門員等の知識・支援の質の向上に取り組む。 ・上記実現のためには、保健医療と福祉の連携が不可欠であることから、「お互いの役割を理解できる場」を確保することによる「顔の見える関係づくり」によって、課の共有や対応策の検討を行う。
-----------------	---

時期（月）	実施内容	具体的な取組（案）
R 8 年 7 月	第 1 回コア会議	令和 8 年度 of 取組内容 of 検討
R 8 年 1 0 月	社会復帰支援者連絡会議 の開催	多職種連携での退院支援及び退院後支援の好事例を紹介
R 8 年 1 1 月	地域相談支援部会 分野別部会の開催	退院支援において相談支援員が求められる役割の理解を深める
R 9 年 2 月	第 2 回コア会議	令和 8 年度 of 取組み of 振り返り及び今後の取組みを協議

※スケジュールはコア会議の承認を得ていないため未定